

作業の意味を考えるための枠組みの開発

吉川ひろみ

県立広島大学保健福祉学部

要旨：本論の目的は作業科学において、作業の意味がどのように表現されているかを明らかにすることである。1993年から2008年までのJournal of Occupational Science誌に掲載された240論文中、タイトル、要旨にoccupationおよびmeaningあるいはmeaningfulが含まれている50論文を対象に、各論文で取り上げられている作業を行う理由や影響、その作業の位置付け、作業の意味に関する論述を抜粋しデータとした。データを一つの意味内容ごとにコードを付け、類似性に注目してカテゴリーを作成した。データの解釈、コード化、カテゴリー化を繰り返した結果、①作業が引き起こす感情、②目的か手段か、③人、場所、時間とのつながり、④生活の組織化、⑤自身との関連、⑥健康との関連、⑦社会の中での意味、⑧作業の分類化、といった8カテゴリーが抽出された。作業の意味を考察するために、このカテゴリーから構成された枠組みを使うことができる。

キーワード：作業、意味、文献レビュー

はじめに

作業科学において作業は、個人的、文化的意味をもつと定義されている¹⁾。作業の意味とは、作業に対する個人的解釈であり²⁾、個人独自のもので作業を行う動機となる³⁾。さらに作業の意味には社会文化的規範を含む場合もある²⁾。人は、意味のある作業をすることで健康な状態へ変化していく^{2,4)}。しかし作業の意味は、詳細を明らかにせずに意味の有無のみが論じられたり、治療手段としての有用性と混同されたり、論者により偏った内容のみが取り上げられていると、筆者は感じている。本研究の目的は、作業の意味を考えるための枠組みを開発することである。作業の意味を詳細に説明する概念が明確になれば、作業の意味をより深く考察することができるとともに、作業の意味の変化を描写することもできる。

方法

唯一の国際的な作業科学専門学術誌であるJournal of Occupational Scienceが創刊された1993年から2008年に、タイトルあるいは要約に「occupation」と「meaningあるいはmeaningful」が含まれている文献を読み、作業の意味として捉えることのできる内容を抜粋しデータとした。内容の抜粋に当たり、その文献で取り上げられている作業に関する論述に注目した。本研究のデータは、インタビュー、ナラティブ、観察を文字にしたもの、他の文書の形にされたものを指すテキストの類である。質的研究法においてテキストは、解釈の土台となる実証的資料で

あり、結論を導く拠り所となるとされている⁵⁾。本研究では、まず対象論文の種類と構造を知るために、要約と本文の該当部分を読み、続いて論文全体における作業に関する論述部分に下線をつけた。次に下線をつけた文章を和訳して余白に書き込んだ。約10件の論文でこれを行った後に、和訳した文章をデータとして別紙に記載し、コードを付けた。一文のデータに複数のコードが付く場合もあった。コードの類似性に着目してカテゴリー化を行いながら、途中でデータとコードに戻って見直し、コードを書きなおす場合もあった。続いて、次の5から10件の論文ごとに同様の手続きをとった。全論文のデータ抽出、コード化、カテゴリー化が終了した後、筆者の読み取りによる論文要旨、データ、コード、カテゴリーを記載した表を作成した(表1)。本研究から抽出されたカテゴリーを使って作業の意味を考察することができるかどうかを知るために、筆者がこの枠組みを使って自分の作業を考えた。さらに、作業科学研究者と作業科学を学んだ学生からこの枠組みについてのフィードバックを得た。

結果

1. 作業の意味を示すカテゴリー

1993年から2008年までのJournal of Occupational Science誌15巻240論文中、タイトルあるいは要約に「occupation」と「meaningあるいはmeaningful」が含まれていたのは50件だった(図1)。創刊年には5件(29.4%)あったが、2002年までは0~3件(20%未満)となり、2003

表1 対象論文から作成した表の抜粋

著者 (年, 研究法)	要旨	データ	コード	カテゴリー
Pentland (2003, フォーカスグループとインタビュー)	脊損中高年女性10名によるフォーカスグループと19名への電話インタビューを行い、加齢に伴う経験や上手く年を取るために必要だと感じること何かを聞いた。	適応のための資源は、自分の態度、自信がつく作業をする、人的資源、道具や環境、心理的サポート、財源と管理技能である	自信がつく作業	自身との関連
		人間関係を変えたり、制約したり、役割を喪失したり、将来不安や情緒的強さが適応と関連する	役割喪失	社会の中での意味
Downs (2008, インタビュー)	家族のレジヤールにおける作業についての現象学的研究である。セルフケアやレジヤールを自立して行えない子をもつ9名の親にインタビューし、10の質問をし、作業の文化的、時間的環境的要因を探った。記述的および解釈的分析を行いテーマを見出した。レジヤールをどのように共有するかについて3つのテーマ ①幸福の時間の機会、②普通の時間、③自分の人生と環境のコントロールの時間、が現れた。	レジヤールは、幸せ、普通、人生や環境をコントロールの機会となる	レジヤールは・・・	作業の分類化
			幸せ	作業が引き起こす感情
			幸せ、普通、コントロール	健康との関連

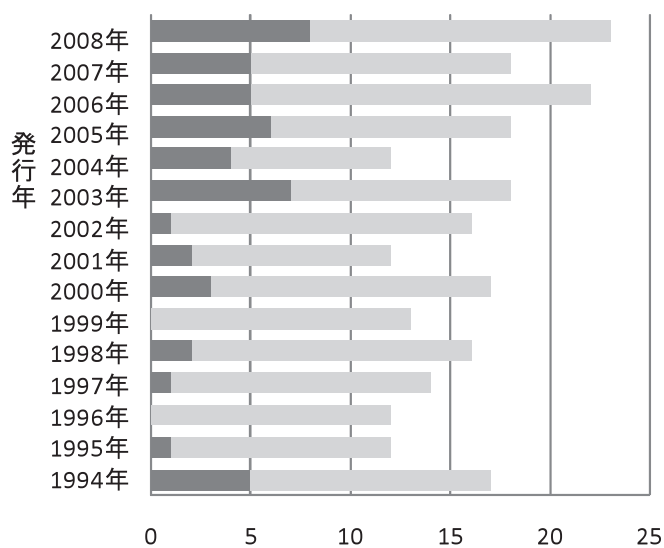


図1 JOS論文数と対象論文数

(1994年刊には1993年分を収録、濃色が対象論文)

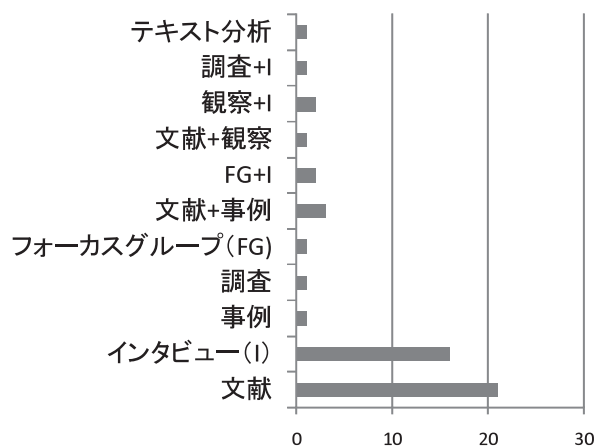


図2 対象論文の研究手法

年には7件(38.9%)と急増し、2008年まで4~8件(20%以上)を保持している。研究の種類はほとんどが質的研究で、文献研究21件(42%)、インタビュー16件(32%)が多く、フォーカスグループ、観察、これらの組み合わせだった(図2)。質問紙を用いた調査は2件で、そのうち1件はインタビューを併用していた。

論文の読み込み、文章の抜粋、コード化、カテゴリー化を繰り返した結果、コード数は140となり、8カテゴリーに整理することができた(表2)。コード数は、1論文に

付き1~7までばらつきがあった。各カテゴリーについて説明する。

1) 作業が引き起こす感情

作業を行う経験が感情を引き出したり、特定の感情を伴って想起される作業がある。Christiansen⁶⁾は、文献レビューから、楽しみ、満足感や充実感といった感情の側面で作業が分類されることがあると述べている。Leufstadius⁷⁾は、地域で生活する精神障害者に日常行っている作業を行う理由を聞き、理由の一つとして楽しみや喜びがあ

表2 カテゴリーと該当コード数

カテゴリー名	カテゴリーの概要	コード数
作業が引き起こす感情	楽しい, うれしい, 幸せな気分のような快感情や苦しい, 辛いなどの不快感情を起こす作業	12
目的か手段か	その作業をすることが最終目標となるのか, 何か別の目標を達するための手段として行われる作業か	4
人, 場所, 時間とのつながり	他者と共に行う作業, 作業を通じた人とつながる作業, 作業を行うために行く場所, 場所の特性が導く作業など場所とつながる作業, 自身や所属集団の過去や未来を意識する時間とつながる作業	24
生活の組織化	ある作業が生活リズムを形成したり, その作業をすることで生活が崩壊するなど, 生活習慣との関連する作業	10
自身との関連	その作業をすることで自分らしさを感じるか否かといったアイデンティティとの関連, 自分自身の人生を決定していくような作業	35
健康との関連	人の身体的, 精神的, 社会的状態を左右する作業	20
社会の中での意味	社会から期待される役割, 社会での地位を決定する作業	15
作業の分類化	仕事か遊び・レジャーなど, 分類する言葉でよばれる作業	20
	合計	140

ると報告した。Clair⁸⁾はタイの高齢女性が行う正月料理の準備作業について研究し、徳を積み幸福になるという側面があると述べていることから、年に一度の特別な行事を構成する作業が快感情を呼び起こすと推察される。Ludwig⁹⁾は、高齢者の生活に孫の世話という新たな作業が加わる際の感情について報告した。このように、作業を行うことによって引き起こされる快感情が動機となり、作業が開始されたり、継続するといえる。さらに Minato¹⁰⁾は、統合失調症者への調査とインタビューから、参加する作業にはストレスからリラックスまでの幅があることを明らかにすると共に、デイケアや作業所に参加するといった仕事関連の作業はストレスではあるが、生活満足度を高めることを報告した。ストレスを感じるといった一時的には不快感情であっても、長期的には良好な結果を導く側面があることが示唆される。作業が引き起こす感情は多様で、快から不快までの幅があるといえる。

2) 目的か手段か

作業は、その作業を行うことを目的とする場合から、その作業を行うこととは別に目的があり、目的を達成するための手段として作業が行われることがある。Weinblatt¹¹⁾は、スーパーマーケットで出会った高齢女性を紹介した。この高齢女性は、スーパーマーケットで買い物しながら、新しい商品を知り、他の買い物客と会話をし、異なるタイプのショッピングカートを試し、エアコンやレジの具合を他の店と比較する、などを行っていた。こ

の女性がメガネを忘れたのでヨーグルトの内容物表記を読んでほしいと依頼したのは、表記内容を知るという目的のための手段であるが、他の客と会話するという作業の手段でもあったと考えられる。Whiteford¹²⁾は、JOSのコラムである Occupational Profile の記述の分析から、その作業が最終目標となる場合もあれば、目標達成までのプロセスとなる場合もあることを報告した。Jensen¹³⁾はオーストラリアの原住民のための仕事を提供するプログラムの成果として、仕事をするようになった人の飲酒が減ったと報告した。これは、原住民が仕事をするという目的を果たしただけでなく、仕事をするのが健康的な生活習慣を獲得する手段として機能した例といえる。作業は目的か手段かのどちらかとなる場合もあるが、目的でもあり手段にもなる場合もある。

3) 人, 場所, 時間とのつながり

作業は、その作業を行う人や行われる環境を超えて、人や場所や時間とつながる場合がある。まず作業と人とのつながりを指摘した例を紹介する。地域で暮らす精神障害者が作業を行う理由の一つに、他者や世界とのつながりがあった⁷⁾。Beagan¹⁴⁾は、若年男性が身体作業を好むのは、仲間からの尊敬を得たり、異性からの好意を期待するという理由であることを報告した。Abrahams¹⁵⁾は、職業人から母へと移行した自らの経験を用いて、息子との関係においてアイデンティティや作業選択が変化したことを考察した。Garci¹⁶⁾は、車いすバスケットボ

ール選手が懸命に練習を重ねる理由の一つに、楽しく親しみのあるチームメイトの存在があると報告した。これらの例から、特定の作業が特定の人とのつながりを生じさせたり、特定の人と一緒に作業を行う作業が、作業遂行を推進したり、意味を強化するといえる。さらに Spitzer¹⁷⁾は、言葉を話さない自閉症児の作業を理解する方法として、作業場面に存在する他者の解釈を用いることを提案した。これは作業と人とのつながりを重視して作業の意味を理解しようという試みといえる。

作業と場所とのつながりについての報告も多く、家は家の作業をするように設計されているし¹⁸⁾、池のある環境では池の掃除やスケートといった作業が生まれる¹⁹⁾。難民キャンプという場所では行う作業が極端に制限されている²⁰⁾。高齢者施設において食事のあり方を変えることで、家らしい場所に変化したという報告もある²¹⁾。環境を重視して子どもの作業を理解すべきだという指摘もある²²⁾。このように、場所はどの作業をどのように行うかに影響を与え、また行われる作業が場所の解釈に影響を与えるといえる。

作業と時間とのつながりについて論じたものがある。Howell²³⁾は、手工芸のキルトが過去の世代から受け継いだ伝統という歴史的意味をもち、生活必需品であり家族のぬくもりを示すものであると述べた。Ilott²⁴⁾は、手作り作品が世代を超えて形見や家宝になることを指摘し、個人の所有物であっても家族の富となることによって死別後に意味が創造されると述べた。Shordike ら²⁵⁾は、クリスマス料理について高齢女性にインタビューし、祖母から母へ、母から娘へといった母系社会のつながりがあることを報告した。これらの例は作業が文化や伝統を反映し、過去から未来への世代間の絆となることを示しているといえる。さらに Persson ら²⁶⁾は、産業化がもたらした作業変化と悪影響を指摘し、エコロジーを重視して現代から未来の作業を考えることを提案した。人類の歴史、過去から未来といった時間軸を念頭において、作業が果たす役割を考察することができる。

4) 生活の組織化、習慣の形成

生活は複数の作業の組合せとして捉えることができるし、日常的に繰り返し行われる作業は習慣とよばれる。作業をすることにより、日々の時間が構造化され、日課や時間の流れが生まれることが明らかになっている^{7,10)}。Westhorp²⁷⁾は、バランスのよい生活について文献レビューを行い、作業の意味や価値を見極めながら健康的なバランスを決めていく「作業バランス達成のためのサイクル」を提案した。Håkansson ら²⁸⁾は、ストレス障害の女性たちが、個人的に意味のある作業を通して複数の作業間の

調和を保っていると報告した。Gallew ら²⁹⁾は、夜勤看護師にインタビューを行い、何か自分にとってよいことを見つけることを通して、時間管理が行われていると報告した。Walker³⁰⁾は、夜勤労働者の適応戦略として、同じ時間に同じことをするといった工夫がされていることを報告した。さらに、孫の世話をするようになった高齢者の日課が壊れ、壊れた日課を修復するために、いつどの作業を行うかを工夫するという報告も報告されている⁹⁾。以上の文献から、複数の作業の組合せにより、バランスが得られたり、調和が保持されることもある。また、ある作業により調和が乱れることもあるし、作業バランスを取り戻す戦略として特定の作業が行われているといえる。

5) 自身との関連

作業の意味は、作業を行う行為者と強く結び付いている。作業には個人独自の意味があり^{10,31)}、作業はその作業を行う人のアイデンティティとの関連が深く³²⁾、自分の作業を自分で選びコントロールするという感覚は、肯定的なアイデンティティをもつことにつながる¹⁵⁾。人は作業を通して価値を実感する³³⁾。車いすバスケットボールをすることは、挑戦するアスリートとして自身をとらえることでもあった¹⁶⁾。演劇を専攻する学生にとって演劇は自己概念と強く結びついていた³⁴⁾。高齢者にとって車の運転は自立した人間であるというアイデンティティを保持する意味があり³⁵⁾、壁に芸術的とも見える落書きをする若者は、その作業を行うことで、危険を承知で特定の集団に所属する自己の存在を確認していた³⁶⁾。負傷した労働者が、労働災害補償制度利用中であっても、労働中の怪我であることを主張することで、労働者というアイデンティティを強調したという報告があり³⁷⁾、作業で表現されるアイデンティティが強力であることが理解できる。また、作業の意味は人生の中で変化し、作業がもつ意味が人生に一貫性を持たせ、方向付けると主張されている³²⁾。このように、どの作業をどのように行うかが自分自身を示し、生涯に渡り作業を続けることが人生を作り上げるといえる。さらに、人生の時期や死の意識化により作業が変化するという指摘もある。Pentland ら³⁸⁾は、脊髄損傷の女性が加齢と共に生じる変化に合わせて作業も変化させていると報告した。Pollard³⁹⁾は、死を意識することが、人生の意味を考える機会となり、作業が変化すると述べ、Hunter⁴⁰⁾は、自分の死後の遺産となる作業を行うと述べた。このような自分自身と関連深い作業の意味を知るためには、パーソナルストーリー⁴¹⁾とかライフヒストリー⁴²⁾と呼ばれる本人の語りを通して理解する方法がある。これは、作業を一人称で語るところから理解するという現象学的視点⁴³⁾とも共通する。作業はそ

表3 作業の意味振り返りシートの記入例

作業：論文を書く			
作業が引き起こす感情	快	不快	
目的か手段か	目的	手段	
人、場所、時間とのつながり	人	場所	時間
生活の組織化、習慣の形成	形成	崩壊	固定
自身との関連、アイデンティティ	自己表現	疎外	喪失
健康との関連	増進・回復	保持	低下(病気)
社会の中での意味	役割・地位		不利
作業の分類化	仕事・義務	遊び・自由	休息

の作業を行う時点で、その作業を行う個人が誰かを物語るだけでなく、どのような人生であることを示す。

6) 健康との関連

作業と行為者の健康やよい状態 (well-being) との関連が指摘されている。作業をすることで健康が維持・促進され^{7,44)}、健康感が高まり^{10,32)}、技能が高まり、発達する⁴⁵⁾。作業をすることで良好な睡眠がとれるようになり²²⁾、飲酒が減り¹³⁾、生産的、社交的になる⁴⁶⁾。Devineら⁴⁷⁾は、同性愛者が作業を通してゲイというマイノリティ集団に適応することを報告した。このように、人は作業を通して身体的にも精神的にも社会的にもよい状態になることができるといえる。Wilcock⁴⁸⁾は、ユートピアを描いた作家の作品の分析から、作業を通して人々がよい状態にあることを指摘した。Carlsonら⁴⁹⁾は、作業を通して健やかな老いが実現すると述べている。一方、病気や傷害により作業を行う機会がなくなり不健康になることも報告されている^{50,51)}。作業の有り様が健康状態を規定する。作業が健康を導くこともあれば、不健康が作業を制約する。

7) 社会の中での意味

作業には個人独自の意味があると同時に、社会との関連での意味ももつ。Jackson⁵²⁾は、政治やイデオロギーといった社会の価値観、人種、階層、年齢、民族、性志向が作業の意味に影響を与えると述べた。Eakman⁵³⁾は、社会の複雑性の中での作業の意味について言及し、Ikiugu³²⁾は、作業には個人的意味と集団の中での意味があると述べた。社会の中で、複数の個人が互いに影響し合い、作業の意味は変化する。Pentlandら³⁸⁾は、人間関係の変化、役割喪失に伴う作業の変化について考察した。個人や社

会の変化によって作業の意味は変化するという指摘もある。Stone³⁷⁾は負傷した労働者は、働けない労働者という社会的スティグマを負うと述べた。Rozario⁴⁴⁾は、産業化された現代社会が作業の意味を失わせたことと述べた。社会が決める作業の意味は、作業を行う個人に影響を与え、個人が抱く作業の意味を規定することもある。

8) 作業の分類化

作業は、仕事や遊びなどと分類されることがある。意味のある作業として仕事を取り上げている文献がある^{10,12,13,20,37)}。また、仕事とレジャーを重視して論じるものもある^{19,51)}。レジャーが生活に与える幸福と普通さを述べたもの⁵⁴⁾、整容について言及したもの⁵⁵⁾もある。作業がどの分類に属するか、何と呼ばれるかが、作業の意味を規定するという側面がうかがえる。作業の分類には仕事、レジャーといった大枠の場合から、身体的作業¹⁴⁾、スポーツ¹⁶⁾、食事の準備から片付け²¹⁾などといったより小枠の場合まである。作業を行う個人、作業が行われる状況は個々で異なっているとしても、作業群として仕事、レジャーなどと命名することにより、その分類に含まれる共通の作業群としての意味が生じる。

2. 作業の意味を考えるための枠組みとしての利用

上述のカテゴリーを使って作業の意味を考えるために、「作業の意味振り返りシート」を作成した。筆者が記入した例を表3に示した。筆者にとって、論文を書くという作業は、筆が進む時には充実し、有能感が高まり快感を生むが、構想がまとまらなかつたり、記述内容の矛盾に気づいた時には苦痛と焦燥感といった不快感情を生

表4 作業科学研究を整理する枠組みとしての利用例

カテゴリー	研究疑問の例
作業が引き起こす感情	どのような作業が喜びをもたらすか
目的か手段か	目的でもある作業は、手段としてのみの作業より有益か
人、場所、世界とのつながり	過去の遺産を未来に受け継ぐ作業とは何か 作業する時、地域や世界にどのような影響があるか
生活の組織化	習慣や日課がどのように形成されるか
自身との関連	作業をする時、自分自身にどのような影響があるか 作業とアイデンティティはどのような関係か どのような作業が自己イメージや自信を高めるか
健康との関連	活動、参加、健康にはどのような関連があるか どのような作業が困難の克服、再適応の手段となるか 生存や健康にプラスの影響を与える作業は何か
社会の中での意味	社会や社会構造は、作業にどのような影響を与えるか
作業の分類化	遊びが仕事になることによって、どのような変化が生じるか

文献56, 57に追加して作成

む。論文の完成が目標なので、論文を書くことそのものが目的であり、また大学教員として業績を上げるという目的のための手段でもある。論文執筆は一人で行うので他の人とのつながりはない。文献を読んだり、アイデアを練ることは場所を選ばないが、執筆には広い机とコンピュータが必要であり、その場所から離れることができない。論文を書くために文献を読む過程では、過去にどのような研究が行われており、将来に向けてどのような研究が必要か、が見えてくるので時間的つながりが生まれる。論文執筆中も将来の研究の方向性や新たなアイデアが生まれ未来への展望が開ける。論文を書くことは時間がかかり、途中で止めると再び始めることがむずかしいので、つい時間を忘れて読んだり書いたりしてしまうので、生活リズムが崩壊することが多い。アイデアが浮かんだときにはすぐに書きたくなるので、日課を変更することもある。また、執筆がなかなか進まない場合には、論文とは関係のない、しなくてもよいようなことをしてしまい、これも生活習慣を崩すこととなる。論文を書くことは自身の考えを表明することであり、自己表現となる。自分の書いた文章を自分で読み、さらに自分の考えを固めることができる。完成した論文は自分の分身のように感じる。論文が順調に書き進められ、完成すると満足や達成感を感じるので精神的にはよい状態になるものの、目が疲れ、肩がこり、身体全体がだるく全般的な健康状態は低下し、休息が必要となる。論文を書くことは、所属学術集団の一員として、勤務する大学の教員としての役割であり、現在の地位を保持することとなる。作業

の分類でいえば、論文を書くことを強制されていないが、仕事の一部であり、職場の立場を考えると義務といえる。

作業科学を専門とする教員3名と作業科学を履修した大学生5名に、カテゴリーについての簡単な説明を添えて「作業の意味振り返りシート」への記入を依頼した。個々の作業では該当しないカテゴリーが1あるいは2あったが、誰も該当しないカテゴリーはなかった。記入後の感想は、作業の意味をより深く考えることができたというものだった。

考察

1. 作業科学研究を整理する枠組みとしての利用
 作業科学において作業は意味をもつと定義されているので¹⁾、作業の意味を研究した作業科学研究は多い。Clark⁵⁶⁾は、作業科学における疑問の例として、活動、参加、健康にはどのような関連があるか、社会や社会構造は健康、参加、生活の質、人間存在をどのように制限するか、人が作業する時、身体、自分自身、地域、世界にどのような影響があるか、をあげている。Molineaux⁵⁷⁾は、作業科学の研究例として、作業とアイデンティティの関係を語る高齢者、能力獲得や習得を達成したり自分への挑戦として作業を行い自己イメージや自信を高める障害者についての研究、習慣や日課についての研究、過去の遺産を未来に受け継ぐという作業、困難を克服したり再適応の手段として行われた作業、生存や健康にプラスの影響を与える作業の累積的效果を紹介している。本研究で得

られたカテゴリーは、こうした作業科学研究を整理する枠組みとして使うことができる(表4)。

2. 教育と実践での応用

作業の意味を考える枠組みは、自分が経験した作業を詳細に説明する概念を提供するので、作業科学の教育や作業療法実践での応用が期待できる。筆者が担当する作業科学の授業で使っている教科書⁵⁸⁾において、意味のある作業とは何か、作業の意味とはどんなものか、といった質問が少なくない。筆者は過去9年間に渡り作業療法学科1年生を対象とした授業「作業科学」を担当し、「意味ある作業」の説明に苦慮してきたが、今後はこの枠組みが説明の助けとなると期待できる。

作業療法においても、この枠組みを利用できるだろう。たとえば作業療法室で、一人で行う作業であっても、作品をプレゼントしたり、成果を披露する機会を作ったり、その作業の歴史を勉強することにより、人や場所や時間とのつながりという意味を付加することができる。また、この枠組みを使えば、できるようになった作業が生活を組織化するかどうか、新たに行うようになった作業がアイデンティティ形成に寄与しているかどうか、に留意しながら作業療法を進めることができる。作業の意味をより広くより深く考慮した作業療法を展開できる可能性がある。

3. 研究の限界と今後の課題

データ収集と分析の過程が明確でなければ質的研究の優劣を評価することはできない⁵⁹⁾ので、本論においても明確化に努力した。本研究ではデータ抽出、コード化、カテゴリー化を部分的に何度も繰り返したが、データ収集と分析を体系的に行えば、より明確に示すことができたと考えられる。本研究では、作業の意味を主たるテーマとする作業科学分野の専門学術誌を対象とし、分析者は作業科学の教育と実践の経験があったので、サンプリングと研究者については、ある程度の信用性が保障されると考えられる。しかし、研究の信憑性(credibility)を高めるためのトライアングレーションと監査が行われていない。トライアングレーションとは、研究手法、情報源、研究者を複数とすることである⁵⁹⁾。インタビューや観察といった研究手法を使ったり、作業の意味が記載されている他誌を対象としたり、複数名で分析して、結果の信憑性を高めることが今後の課題である。また本研究では、分析の途中で他の作業科学研究者に経過を開示しコメントは得たものの系統的に行わなかったため、正式に監査の道筋をとることも今後の課題である。

まとめ

1993年から2008年までのJournal of Occupational Science誌に掲載された240論文で、タイトルあるいは要旨にoccupationおよびmeaningあるいはmeaningfulが含まれている50論文を対象に、作業を行う理由や影響、その作業の位置付け、作業の意味に関する論述を調べた結果、①作業が引き起こす感情、②目的か手段か、③人、場所、時間とのつながり、④生活の組織化、⑤自身との関連、⑥健康との関連、⑦社会の中での意味、⑧作業の分類化、といった8カテゴリーが抽出された。このカテゴリーを使うことにより、行っている作業にはどのような意味があるかをディスカッションすることができる。また、すでに行っている作業がもつ新たな意味を発見するためのヒントを得たり、将来行う作業について、このカテゴリーの利用により複数の意味を付加するように考えることができる。

文献

- 1) Clark FA, Parham D, Carlson ME, Frank ME, Jackson J, et al: Occupational science: Academic innovation in the service of occupational therapy's future. *Amer J Occup Ther* 45: 1069-1080, 1993.
- 2) Nelson DL: Why the profession of occupational therapy will flourish in the 21st century. *Amer J Occup Ther* 51: 11-24, 1997.
- 3) Trombly CA: Occupation: purposefulness and meaningfulness as therapeutic mechanisms. *Amer J Occup Ther* 49: 960-972, 1995.
- 4) カナダ作業療法士協会著、吉川ひろみ監訳: 作業療法の視点—作業ができるということ. 大学教育出版. 2000 (Canadian Occupational Therapy Association: Enabling Occupation: An Occupational Therapy Perspective. Ottawa, CAOT ACE, 1997.)
- 5) ウヴェ・フリック (小田博志ほか訳): 質的研究入門 <人間科学>のための方法論. 春秋社, 2002.
- 6) Christiansen C: Classification and study in occupation a review and discussion of taxonomies. *J Occup Sci* 1(3), 3-21, 1994
- 7) Leufstadius C, Erlandsson LK, Björkman T, & Eklund M: Meaningfulness in daily occupations among individuals with persistent mental illness. *J Occup Sci* 15(1), 27-35, 2008.
- 8) Clair VW: Offerings: Food traditions of older Thai women at Songkran. *J Occup Sci* 11(3), 115-124, 2004.
- 9) Ludwig FM, Hattjar B, Russell RL & Winston K: How

- caregiving for grandchildren affects grandmothers' meaningful occupations. *J Occup Sci* 14(1), 40-51, 2007.
- 10) Minato M & Zemke R: Occupational choices of persons with schizophrenia living in the community. *J Occup Sci* 11(1), 31-39, 2004.
 - 11) Weinblatt N, Ziv N, Avrech-Bar M: The old lady from the supermarket-categorization of occupation according to performance areas: Is it relevant for the elderly? *J Occup Sci* 7(2), 73-79, 2000.
 - 12) Whiteford G and Wicks A: Occupation: Persona, environment, engagement and outcomes. An analytic review of the Journal of Occupational Science Profiles. Part 2. *J Occup Sci* 7(2), 48-57, 2000.
 - 13) Jensen H: What it means to let off sit-down money: Community development employment projects(CDEP). *J Occup Sci* 1(2), 12-19, 1993.
 - 14) Beagan B & Saunders S: Occupations of masculinity: Producing gender through what men do and don't do. *J Occup Sci* 12(3), 161-169, 2005
 - 15) Abrahams T: Occupation, identity and choice: A Dynamic interaction. *J Occup Sci* 15(3), 186-189, 2008.
 - 16) Garci TCH & Mandich A: Going for gold: Understanding occupational engagement in elite-level wheelchair basketball athletes. *J Occup Sci* 12(3), 170-175, 2005.
 - 17) Spitzer SL: With and without words: Exploring occupation in relation to young children with autism. *J Occup Sci* 10(2), 67-79, 2003.
 - 18) Stanyer J: The home: An occupational ideal. *J Occup Sci* 1(4), 31-36, 1994.
 - 19) Manuel PM: Occupied with ponds: Exploring the meaning, beware the loss for kids and communities of nature's small spaces. *J Occup Sci* 10(1), 31-39, 2003.
 - 20) Steindl C, Winding K, & Runge U: Occupational and participation in everyday life: Women's experiences of an Austrian refugee camp. *J Occup Sci* 15(1), 36-42, 2008.
 - 21) Bundgaard KM: The meaning of everyday meals in living units for older people. *J Occup Sci* 12(2), 91-101, 2005.
 - 22) Bowden S: Development of a research tool to enable children to describe their engagement in occupation. *J Occup Sci* 2(3), 115-123, 1995.
 - 23) Howell D: Exploring the forgotten restorative dimension of occupation: Quilting and quilt use. *J Occup Sci* 7(2), 68-72, 2000
 - 24) Ilott I: A special occupation: commissioning an heirloom. *J Occup Sci* 13(2), 145-148, 2006
 - 25) Shordike A & Pierce D: Cooking up Christmas in Kentucky: occupation and tradition in the stream of time. *J Occup Sci* 12(3): 140-148, 2005.
 - 26) Persson D & Erlandsson L: Time to reevaluate the machine society: post-industrial ethics from an occupational perspective. *J Occup Sci* 9(2), 93-99, 2002.
 - 27) Westhorp P: Exploring balance as a concept in occupational science. *J Occup Sci* 10(2), 99-106, 2003.
 - 28) Håkansson C, Dahlin-Ivanoff S & Sonn U: Achieving balance in everyday life. *J Occup Sci* 13(1), 74-82, 2006
 - 29) Gallew HA & Keri M: An occupational look at temporal adaptation: night shift nurses. *J Occup Sci* 11(1), 23-30, 2004.
 - 30) Walker C: Occupational adaptation in action: Shift workers and their strategies. *J Occup Sci* 8(1), 17-24, 2001.
 - 31) Hannam D: More than cup of tea: Meaning construction in an everyday occupation. *J Occup Sci* 4(2), 69-74, 1997.
 - 32) Ikiugu MN: Meaningfulness of occupations as an occupational-life-trajectory. *J Occup Sci* 12: 102-109, 2005.
 - 33) Rowles GD: Place in occupational science: A life course perspective on the role of environmental context in the quest for meaning. *J Occup Sci* 15(3), 127-135, 2008.
 - 34) Yeager J: Theater engagement and self-concept in college undergraduates. *J Occup Sci* 13(3), 198-208, 2006.
 - 35) Vrkljan BH & Polgar JM: Linking occupational participation and occupational identity: an exploratory study of the transition from driving to driving cessation in older adulthood. *J Occup Sci* 14(1), 30-39, 2007.
 - 36) Russell E: Writing on the wall: The form, function and meaning of tagging. *J Occup Sci* 15(2), 87-97, 2008.
 - 37) Stone SD: Workers without work: Injured workers and well-being. *J Occup Sci* 10(1), 7-13, 2003
 - 38) Pentland W, Alker J, Minnes P, Tremblay M, Brouwer B, Gould M: Occupational responses to mid-life and aging in women with disabilities. *J Occup Sci* 10(1), 21-30, 2003.
 - 39) Pollard N: Is dying an occupation? *J Occup Sci* 13(2), 149-152, 2006
 - 40) Hunter EG: Legacy: The occupational transmission of self through actions and artifacts. *J Occup Sci* 15(1), 48-54, 2008.
 - 41) Molineux M & Rickard W: Storied approaches to understanding occupation. *J Occup Sci* 10(1), 52-60,

- 2003.
- 42) Wiseman LM & Whiteford G: Life history as a tool for understanding occupation, identity and context. *J Occup Sci* 14(2), 108-114, 2007.
 - 43) Barber MD: Occupational science and phenomenology: Human activity, narrative and ethical responsibility. *J Occup Sci* 11(3), 105-114, 2004.
 - 44) Rozario L: Ritual, meaning and transcendence: The role of occupation in modern life. *J Occup Sci* 1(3), 46-53, 1994
 - 45) Hocking C: A model of interaction between objects, occupation, society, and culture. *J Occup Sci* 1(3), 28-45, 1994.
 - 46) Martin K, Wicks A & Malpage J: Meaningful occupation at the Berry Men's Shed. *J Occup Sci* 15(3), 194-195, 2008.
 - 47) Devine R & Nolan C: Sexual identity & human occupation: A qualitative exploration. *J Occup Sci* 14(3), 154-161, 2007
 - 48) Wilcock A: Occupational utopias: Back to the future. *J Occup Sci* 8(1), 5-12, 2001
 - 49) Carlson M, Clark F, Young B: Practical contributions of occupational science to the art of successful ageing: How to sculpt a meaningful life in older adulthood. *J Occup Sci* 5(3), 107-118, 1998
 - 50) Clair VW: Storymaking and storytelling: Making sense of living with multiple sclerosis. *J Occup Sci* 10(1), 46-51, 2003
 - 51) Winkler D, Unsworth C & Sloan S: Time use following a severe traumatic brain injury. *J Occup Sci* 12(2), 69-81, 2005
 - 52) Jackson J: Is there a place for role theory in occupational science. *J Occup Sci* 5(2), 56-65, 1998
 - 53) Eakman A: Occupation and social complexity. *J Occup Sci* 14(2), 82-91, 2007.
 - 54) Downs ML: Leisure routines: Parents and children with disability sharing occupation. *J Occup Sci* 15(2), 105-110, 2008
 - 55) Hartshorne S: An evolutionary perspective of grooming as an occupation. *J Occup Sci* 13(2), 126-133, 2006.
 - 56) Clark F & Lawlor MC: The making and mattering of occupational science. In Crepeau EB, Cohn ES, & Schell BAB, Willard and Spackman's Occupational Therapy 11th ed, Lippincott Williams & Wilkins, a Wolters Kluwer business, Baltimore, MD, pp. 2-14, 2009.
 - 57) Molineaux M: Occupational science and occupational therapy: Occupation at centre stage. In C. Christiansen, & E. Townsend. Introduction to Occupation: The art and science of living, 2nd ed, Pearson Education Inc, Upper Saddle River, NJ, pp. 259-384, 2010.
 - 58) 吉川ひろみ:「作業」って何だろう. 医歯薬出版, 2008.
 - 59) キャサリン・ポープ, ニコラス・メイズ著, 大滝純司監訳: 質的研究実践ガイド 保健医療サービス向上のために 第2版. 医学書院, 2008. (Pope C & Mays N: Qualitative Research in Health Care 3rd ed. Blackwell, Oxford, 2006)

Development of a frame of meaning of occupations

Hiromi Yoshikawa

School of Health and Welfare, Prefectural University of Hiroshima

The purpose of this article is to explore meaning of occupations from literature in Journal of Occupational Science from 1993 to 2008. Meaning/meaningful and occupation were found in titles or abstract in 50 out of 240 papers. What is the reason to do the occupation or what is the meaning of doing occupations were examined in those papers. Eight categories were emerged. These are 1) comfortable and/or uncomfortable feeling when doing the occupation, 2) occupation as means and/or end, 3) connection to others, time, and/or place, 4) making or breaking habits, 5) relation to self such as identity and self expression, 6) positive and/or negative effects on health, 7) relation to society such as role and stigma, and 8) activity categories such as work and play. These categories can be used when therapists discuss about how meaningful clients' occupational experiences are. The frame of meaning of occupations consisted by these categories can be used as a guide to make occupations more meaningful.

Key words: occupation, meaning, literature review